

家畜・家きんの種類:乳用牛

- ・ 雌牛から、飲用牛乳やバター、チーズ、ヨーグルトなどの乳製品を生産するための「生乳(せいにゅう)」を搾乳。
- ・ 経産牛(子供を産んだことがある牛)1頭当たり年間約8,000kg(昭和40年約4,300kg)の生乳を生産、平均搾乳期間は360日程度。

注:生産物である生乳は、リットルなどではなくキログラムやトンで数える。

ホルスタイン種

雄牛



典型的な乳用牛であり、我が国で飼養されている乳用牛の99%以上がホルスタイン種。その数は約150万頭。もちろん人間同様、子供を産まないと乳は出ない。

「種雄牛(しゅゆうぎゆう)」と言い、雌に種付けするための精液を採取するための雄牛。精液販売の専門業者など、限られたところでしか飼養されていないため、めったに見る機会はない。

雌牛



写真提供:(社)全国肉用牛振興基金協会

ジャージー種



我が国ではホルスタイン種の次に頭数が多く、その数は約1万頭。ホルスタイン種に比べ、乳量は少ないが、乳脂率が高いという特徴がある。主に岡山県の蒜山高原などで飼養されている。

写真提供:(社)中央畜産会

ブラウンスイス種



我が国ではホルスタイン種、ジャージー種の次に頭数が多く、その数は1千頭強。ホルスタイン種に比べ、乳タンパク率が高く、チーズ加工に適し、足腰が強く放牧に向いている。主に北海道、九州などで飼養されている。

写真提供:(社)中央畜産会